

# TSIがグループ企業を再編 反転攻勢に打って出れるか？

TSIホールディングスがグループ会社を再編する。東京スタイルとサンエー・インターナショナルのブランド事業をそれぞれ分割し、5つの新会社を2014年3月に設立する。11年6月に統合したTSIは中核子会社の東京スタイルとサンエー・インターナショナルの下に、孫会社のナノユニバースやローズパッド、アングローバルなどがぶら下がる3層構造だったが、これをTSIの下に各事業会社を並列させる2層構造に変更する。フラットな構造にすることで、TSIはグループ全体の戦略立案と財務機能に特化し、経営効率を向上させる。三宅正彦・会長兼社長は「ホールディングスは小さな政府に徹し、権限を委譲する。事業は各事業会社が独立採算で切磋琢磨する形が望ましい。(各

事業会社の)社長には社名も役員も勝手に決めろ、自由にやれ、その代わり大きく儲けろと言っている」と話す。

分割後にできる新会社5社は、東京スタイル、TOKYOSTYLEインプレスライン、サンエー・インターナショナル、サンエー・ビーディー、TSIグループヴァンドスポーツ。これにサンエー・インターナショナルの子会社であるFREE'S INTERNATIONALを加えた6社が各ブランドを継承する。東京スタイルは、百貨店を主力販路にする現・東京スタイルの大半のブランドと、現・サンエーで第3カンパニーの「ナチュラルビューティー」「ピンキー&ダイアン」など百貨店ブランドが合流する。TOKYOSTYLEインプレスラインは、現・東京スタイルが今秋

発売した「ウィ、アヤノリュパン」を継承する。サンエー・インターナショナルは、現・サンエーの第4、5カンパニーの「ジル スチュアート」「ヒューマンウーマン」などで構成される。サンエー・ビーディーは、現サンエーの第1、2、5カンパニーから「ナチュラルビューティーベシック」「アンドバイP&D」が移る。TSIグループヴァンドスポーツは、現サンエーの第6カンパニーから「パーリーゲイツ」などのゴルフブランドが独立したものだ。5社は大枠では百貨店と駅ビル・ショッピングセンターという販路で分かれているが、これは固定されるものではないという。TSIは前期から今期にかけて「聖域なき構造改革」と銘打って、不採算事業の撤退、工場や営業所の統廃合などリストラを強力に進めてきた。東京スタイルは前期と今期で計10ブランド、サンエーも今期6ブランドを廃止。東京スタイルは売上高を半減させるに至った。



三宅正彦／TSIホールディングス会長兼社長

今回のグループ再編を改革の総仕上げと位置付ける三宅会長は「もはや服だけがファッションビジネスだった時代は終わった。ライフスタイルに領域を広げるなど、新しいことをやらない限り、これから利益は上がってこない。時代の変化に対応した面白い仕掛けができる組織に変えなくてはならない」と話す。TSIは15年2月期を最終年度にした中期計画で売上高2200億円、営業利益50億円を掲げていたが、一連のリストラにより売上高1800億円、営業利益40～50億円に下方修正する。

東京スタイルとサンエー・インターナショナルの新設分割会社

新会社名	東京スタイル	TOKYOSTYLE インプレスライン	サンエー・インター ナショナル	サンエー・ビーディー	TSIグループ ヴァンドスポーツ
社長	山田康夫	高野茂	押木源弥	前川正典	仙座学
年商規模	260億円	—	210億円	330億円	110億円
主要 ブランド	・アリスパーリー ・ヴァンドウー オクトーブル ・スタイルコム ・スタイルミー ・セーヌドゥー ・ナチュラルビューティー ・ピンキー&ダイアン ・ボッシュ	・ウィ、アヤノリュパン	・ダイアンフォンファス テンバーグ ・ヒューマンウーマン ・キャスキッドソン ・ジル スチュアート ・パービー ・ヴィヴィアン タム ・ボディドレッシング デラックス ・アドーア ・ジルスチュアート ニューヨーク	・ナチュラルビューティー ベシック ・エヌ ナチュラル ビューティーベシック ・アンドバイ ビーアンド ディー ・プロポーシオンボディ ドレッシング ・ジル バイ ジル スチュアート	・パーリーゲイツ ・パーリーゲイツ ザ グリーン ゴルフ ストア!! ・キャロウェイ

## Editor's Check

.....  
企業文化が180度異なると言われた東京スタイルとサンエー・インターナショナルの統合から2年半。規模の拡大による相乗効果が期待されたが、実際には多くの時間を赤字事業のリストラに充てざるをえなくなり、成長戦略は後手に回った。グループ再編によってTSIはようやくスタート台に立ったといえる。